

春休み福島の子ども保養プロジェクト in 神奈川 (2013)

●3回目の“福島の子ども保養プロジェクト”

2013年3月25日～3月29日にわたり、神奈川県に福島の子どもたちを迎える“福島の子ども保養プロジェクト in 神奈川”が行なわれました。2012年春休み企画・夏休み企画に続いて3回目となります。神奈川県ユニセフ協会や神奈川県生協連と、東北の支援活動を行なっている「守りたい・子ども未来プロジェクト」との協力による実行委員会主催です。これまでと同様に、ユーコープやパルシステム神奈川ゆめコープ、富士フィルム生協、うらがCO-OP、ナチュラルコープ・ヨコハマ等県内の各生協、秦野市や近隣の企業やNPOも協力。子どもたちの5日間にわたる滞在を支援しました。

協力を手挙げた各生協や企業数は、前回は大きく上回るものでした。「協賛は広く浅く、息の長いものにしていきたい」と、神奈川県生協連専務理事の丸山善弘さんはスタンスについて説明していました。



今回は、参加1人につき5日間分

ウェルカムパーティーで楽しむ、参加した子どもたち。

3,000円の参加費の負担をお願いしました。費用面の負担を求めるものではなく、プロジェクトに“参加する”意識を高めてもらうためのものだそうです。また、昨年は福島県生協連からの引率者や保護者の参加がありましたが、今回は神奈川側からボランティアスタッフが福島・郡山に赴き、現地で保護者の方々と顔を合わせた上で子どもたちを預かり、バスに同乗して神奈川まで引率する形になりました。「自分たちが意義を感じ、行なっている活動ですから、最初から最後まで責任をもって運営をしたいと思っています」と、「守りたい・子ども未来プロジェクト」事務局長の梶 雅之さんは話していました。

●ボランティアスタッフの努力

25日の夕方、神奈川県市秦野市表丹沢野外活動センターに到着した37人の小学生は、18時よりウェルカムパーティーに参加。子どもたちはユーコープの組合員が心を尽くして作った手巻き寿司やフルーツポンチなどを味わい、その後グループごとにメンバーを“他己紹介”するレクリエーションを楽しみました。子どもたちは疲れた様子も見せず、パーティーを楽しんでいました。

20時前にパーティーを終えると、就寝準備へ。5人～8人の班ごとに、部屋に戻ると各部屋を担当する学生を中心としたボランティアが体温チェックを促し、それぞれに食事や便通、心配事はないかを確認。薬を飲んでいる子どもたちは、保護者から預かった薬を管理する看護師のいる部屋に行き服用していました。

子どもたちが床についた21時半頃より、ボランティアスタッフミーティングを開始。ユニセフや神奈川県生協連、ユーコープの担当者、看護師、福島大学、横浜国立大学、明治学院大学、広島大学の学生ボランティアが気付いたことを互いに報告し注意点を共有。学生ボランティアには子どもたちの世話をするのが初めてという方もいました。でも、「〇〇くんと〇〇くんは元々同じ学校で友だちだった。それが転校して離ればなれになっていたけれど、今回は一緒に参加してそれを喜んでいる。

できたら同じ班にしてあげられないか？」など、よく観察し子どもたちの小さな不安も見逃さないように注意を払っていました。神奈川県ユニセフ協会事務局長の谷杉佐奈美さんは「前年に比べると少しボランティアが少ないけれど、よろしくお願いしますね」と声掛け。その他翌日の昼食をどこに集まって食べるかなど、細かいオペレーションの擦り合わせも丁寧に行なっていました。

●いちご狩り、アスレチックを楽しみました

26日の朝は6時40分頃より子供たちは外に出て遊びだし、7時よりみんなでラジオ体操。元気よく体操を済ませると朝食へ。「表丹沢菩提里山づくりの会」の方々による地元の食材を使った家庭の味を味わいました。そして野外活動センターを9時に出発し、この日最初のスケジュールのいちご狩りへ。秦野市内の農園に20分程度で着くと、ビニールハウスの中で栽培されている2種類のいちごを食べました。朝ご飯を食べただけでしたが、別腹？なのか、子どもたちは笑顔でいちごをもぎ取って食べていました。

そして、神奈川県立秦野戸川公園へ。丹沢の山に源流を持つ水無川沿いにつくられた広々とした公園に到着すると、子どもたちはトランポリンのような遊具やアスレチックに飛びついたり、川遊びやフリスビーを楽しみました。昼食を挟んで約3時間、青空の下で身体を目一杯動かして、野外活動センターへ戻りました。

この公園で福島大学のボランティアが2人合流。初日から参加していた鈴木瞳さんに加え、三浦智仁さん、石川美紅さんが加わりました。3人は同じボランティアサークルのメンバーで、福島の子ども保養プロジェクトの週末保養企画などをサポートをしているとのこと。1泊以上のプロジェクトへの参加は、鈴木さん以外は初参加とのことでしたが、「子どもと遊ぶのが大好き」（石川さん・三浦さん）というだけあって、到着すると早速子どもたちと打ち解けて、一緒に身体を動かしていました。

鈴木さんに「同世代にひとこと」とお願いすると「ボランティアに“行こうよ”と誘うのは難しい部分もある。でも、自分たちができることはたくさんある。少しでも興味のある人は、一歩を踏み出してみてもいい」とのことでした。



いちご狩りを楽しむ子どもたち。



公園の遊具で元気に遊ぶ子どもたち。